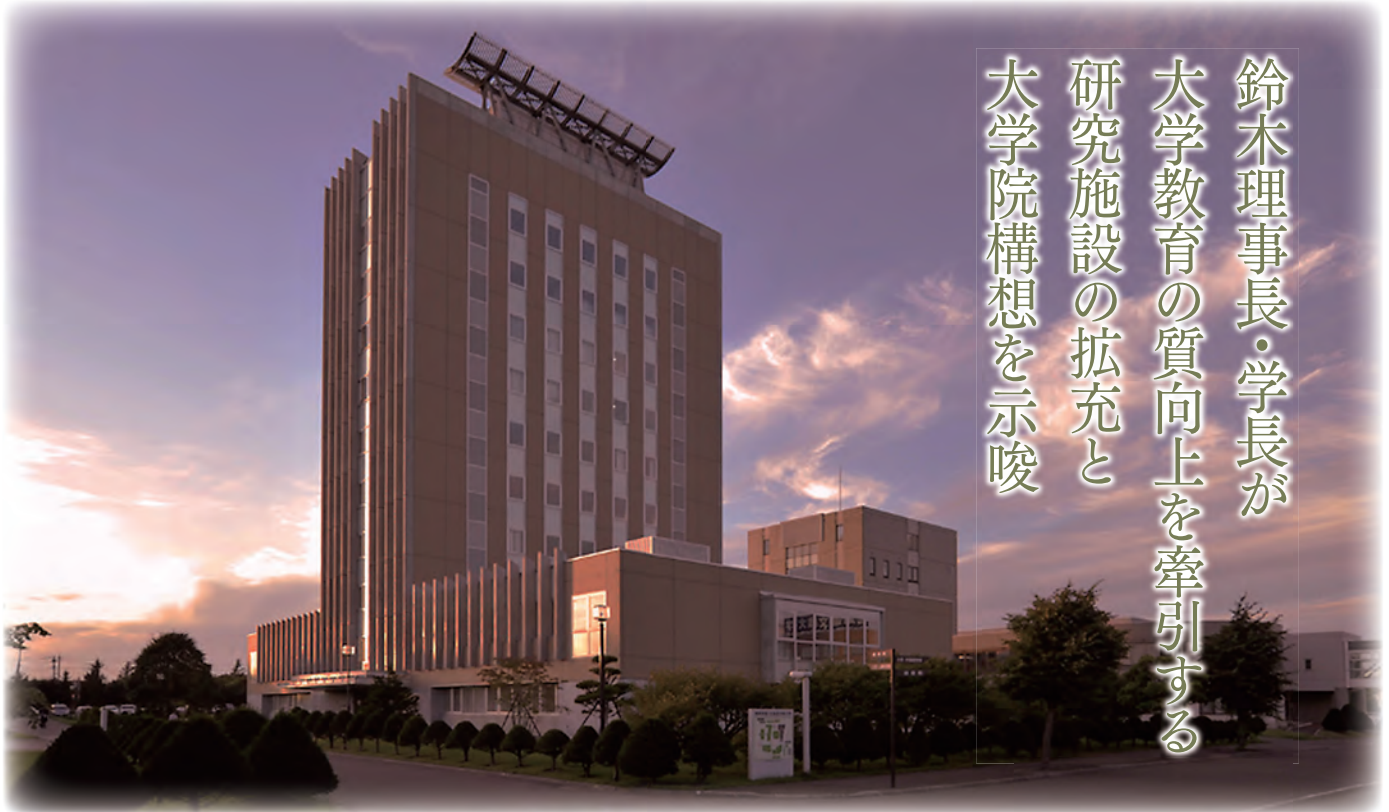


学校法人 鶴岡学園 北海道文教大学

北海道文教大学大学院 北海道文教大学附属幼稚園
北海道文教大学 明清高等学校

鈴木理事長・学長が 大学教育の質向上を牽引する 研究施設の拡充と 大学院構想を示唆



私

立大学を取り巻く環境は依然厳しい状況が続いている。少子化によるバリアフリーが叫ばれ久しいが、18

歳人口は2008年以降は120万人程度で足踏みしている、この状況は2020年頃まで続くと言われ、言わば階段の踊り場の状況にある。その後減少の傾向は止まらず、2027年頃には100万人程度に減り、その後50万人前後まで落ち込むとする予測も存在する。特に道内環境はこれに地域疲弊という二重苦が加わり、極めて厳しい環境に直面すると言わざるを得ない。

幸いにして本学は国家資格取得を第一義とする学科が多く、有益な人材を数多く地域社会に輩出する役割を果たしていることから、現状では選抜するに足る多くの志願者を得ることができ、その結果、就職氷河期と呼ばれる状況にあっても学生達は堅調な成果を挙げている。しかし、他大学にも医療系分野の学科を新設する動きが活発化しており、これらと共存するには飛躍的に大学進学率が伸びるか、従来型ではない志願者の確保を行わない限り共存は望めない。一方で日本の大学のグローバル化は避けられないとして、全ての大学がその様な大学を目指す必要はないし、目指すことができないのも事実である。さすれば、地方の大学に求められるものは地域に貢献することであり、地域ならではの豊かなコミュニケーション関係力であり、その様な環境から発信する細やかな専門性にあるべきである。つまり、自負心や自立心に富み、確固たる専門性を有し、これを維持し常に向上する能力を有する人材を

育む為には、大学教育の質の向上に向けた努力を教職員一体となり推進する事は自明の理であることは言うに及ばない。

本年1月7日(月)、新年交礼会が恵庭キャンパスにある北海道文教大学で開催された。学園永年勤続者の表彰に続き、年頭挨拶で鈴木武夫理事長・学長は全教職員に向かい、前段のような私学を取り巻く状況を踏まえた上で、教育の質を上げる上でも、2学部6学科を有する大学が先んじて各学科に大学院設置を目標として掲げ、同時に選ばれた大学として存続維持するには、教育と研究の質を高める努力を継続しなければならぬ。そのような意味でも大学院の牽引力に期待しており、その為には新たな研究施設の増床も前向きに検討したい。設置にあたり学生募集力を良く分析し、各学科の長所と短所を良く知る事が必要であり、その上で学部生の憧れや目標となる大学院構想を構築することが求められる。そのような周到な準備が整った学科より随時設置準備を進めるが、漫然として悠長に構える時間はなく、今後も教職員一体となった取り組みを一層強く求めたいと締めくくられた。



保育・幼児教育の 充実を実感しつつある附属幼稚園

お

たんじょうのおともだちに、たんじょうカードのおねげんとです。

司会の年長児つるのこ組のお友達に促されて、担任の先生が誕生カードに書いてある誕生のお友達のプロフィールを紹介します。なんとこの日(11月28日)集まった園児一人ひとりが、食い入るようなまなざしを担任の先生に注いでいるではありませんか。みんな、誕生のお友達をお祝いしようという誕生会ですが、皆が同じようにお祝いの気持ちを持ち、表すという事は、そう容易なことではありません。二人ひとりのこどもが幼稚園の生活の中でしっかりと認められ、自己発揮できているから他なりません。子どもたちの意欲の表れの姿といつてもよいのです。これは、少し前の「発表会」での体験によるものでしょう。今回の「発表会」で、どの子も、みんなと「一緒に飛び切りの姿を皆さんに見てもらった」という満足の体験があり、他者への関心が強く表れているということなのです。

幼児教育は、心情・意欲・態度を育てる教育です。今年度の附属幼稚園は、保護者の皆様方よりの絶大な協力を得て、保育の充実を実感できるような機会をたくさんいただきました。さらに新年度に向けて、希望と理想を大きく抱き、80人の園児たちと共に保育を創造していきます。

このような子どもたちの姿の実現にかかわる、本年度における幼稚園の「札幌市私立幼稚園連合会」の研究大会における公開保育「発表会」(クリスマス音楽会)「北海道文教大学との連携による研究」などの取り組みを、ぜひご覧いただきたいと思えます。そして、皆様、是非一度、素敵な子どもたちの附属幼稚園へ。子どもたちと保育者の笑顔をお待ちいたしております。

札幌市私立幼稚園連合会の保育 研究大会における公開保育

10月19日金曜日に、約五十名の札幌市内外の幼稚園の先生方に参加いただき、公開保育を行いました。当日は、縦割りクラス(3歳から5歳までの混合クラス)2クラスを公開した。クラス別の保育は、11月の発表会で行う予定になっている劇遊びの導入が当日の保育。3クラスのうち、二クラスも公開しました。また、朝の自由遊びでは、毎日行っている、ランニングや、冒険広場でのあそび、くろみひろいなどにも参加していただきました。公開後の意見交流会で、「穏やかな雰囲気」が印象的と認めていただきました。子どもが主体となった生活を大事にしている幼稚園として、とてもうれしい評価でありました。いただいた評価や感想から学ぶことが非常に多くありました。

■参加者のアンケート

- ・とても穏やかで優しい声かけが印象的でした。子どもたちがのびのび元氣よく、参加していたことはとても嬉しい気持ちになりました。
- ・保育室がスッキリと綺麗で、じっくりそれぞれの遊びが出来るよう、環境が整えられていて、普段園児がどのように活用しているのだろうと、大変興味がありました。園児に対する担任の声かけが自然で、園児もきちんと行動できていたようで自分自身の保育(関わり)の振り返りができました。
- ・劇あそび。縦割り保育の中での子ども同士の学びや刺激のとり入れ方が見え、大変参考になりました。豊かな表現の芽がたくさんひそんでいる子どもたちの姿に、これからぜひそういった姿を引き出し、より豊かな生活作りをされていくのだろうなと思えました。
- ・先日受けた講演会で「静けさは最大の支援」と



言っていたことを実感できる、おだやかな環境でした。見習いたいと思えます。

- ・男性の方の保育を初めて見させていただきましたが、とてもあたたかい雰囲気、自分の保育を見直したいと思いました。子どもたちが先生を大好きなんだな、と思えました!
- ・帰りの会。絵本は子どもたちの好きな本を選んだということでも、とても集中して(3才児も)反応しながら見ていて感じました。「今日は劇あそびをしました」に「面白かった!」「月曜日は公園に行きます」に「やった〜!」「園生活を楽しんでいる様子が見えました。
- ・マラソン活動の取りくみが参考になりました。子どもたちが非常に純粋に先生の進める保育に参加し、一体となっている姿は素晴らしいです。穏やかで言葉使いも良いですね。
- ・ランニングでほんの少し一緒に走ってみた。思ったより先が遠くまでびっくりした。切りかぶに気をとられ乗ってみた。子どもが楽しいと思う気持ちになった。上手にレングスを使い、くるみを割って、食べさせてくれた。おいしかった。
- ・戸外活動、ランニング、くるみ割り。自然豊かな環

境で子どもたちが伸び伸び生活している様子が伝わりました。子どもたちが心から劇あそびを楽しみ、姿に感激しました。先生の日々の接し方、努力が信頼関係を築いているのも感じました。先生の話し方、表情の1つ1つに子どもたちが安心して見える姿を見て大変勉強になりました。

■分科会

公開後の分科会は、「障害のある子どもの保護者の支援の在り方」と題して、本学、理学療法学科横井裕一郎准教授による講演を行いました。子どもの成長を共に支える保護者としてより良い連携をするために具体的などのような方策で臨んだらよいのか、幼児教育・保育的な接点の在り方とは、味違う話をいただきました。幼稚園、保育園の障害児保育や特別支援教育のネットワークには、理学療法分野の関与はあまり多くないのが実情です。興味深い感想が多く寄せられました。

■参加者の感想

- ・障がいを持つ保護者について「要求の大きさ」がわが子の成長や園に対する期待の現れの大きさでもあるのだろうかという見方にも気がきました。
- ・障がいについて、なぜ障がいが出てしまうのかなど具体的に理解することができました。また障がいをもつ子の親の気持ち、親の願いも改めて感じることも出来ました。
- ・脳性まひの原因や症状についても詳しく聞くことができました。保護者の関わりについて、医療機関での今までの経緯から、幼稚園までの流れの内容や、親の幼稚園に対する思いや、期待についてわかることができました。
- ・人間らしい先生の、人間らしいお話が聴けました。私のクラスにも、保護者に気付いていただけよう、配慮している子どもがいます。困る事が増えている子どもなので、その子が今後困る事が増えないよう、そして母親も悩まないよう、手助けできたらと思っている途中です。良い勉強になりました。
- ・とてもわかりやすいお話でした。保護者の気持ち、考え方も少しですが理解でき、今後の共感につながるように思います。
- ・医療機関の立場からの幼児を支えていくための

視点とそれを取り巻く保護者の心の支えを改めて学ぶことができました。

・偏見をなくすることは難しいですが、少しでも役に立てるようにしたいと思えました。またお話を聞きたいです。

・本当にひと味違ったお話をうかがうことができませんでした。受け入れることの難しさや大切さを考えさせられました。

発表会

本園の発表会は、3・4・5歳児が一緒になったクラス(縦割り)が、それぞれ劇遊びを、それを保護者の皆様に披露しようというものです。子どもたちのアイデアや、興味関心の向きによって、内容が大きく変わってきます。

また、クラスごとに、保護者の皆様が入れ替わる形をとっています。数年前まで、一堂に会して、歌や楽器、劇遊びを見ていただいていたのですが、参加の保護者の増加により、遊戯室に入りきらない現実にもよりました。このより、音楽部門を「クリスマス音楽会」に分離し、うたやダンスなども含めた劇遊びの発表となりました。

今年の発表会は11月23日勤労感謝の日でした。天候にも恵まれ、時間に合わせてご家族の皆さんと一緒にここに、顔の園児たちが登壇してきました。演目は、

- いちご組 「オオカミと七ひきのこやぎ」
- もも組 「大きなかぼちゃ」
- ばなな組 「3びきのこぶた」

各クラスに個性があり、笑顔と拍手を誘う子どもたちの姿がありました。ときには、間違ったセリフを、途中で訂正してあげる仕切り屋さんの子の姿があったり、は分いんぐがありながらも、楽しく劇は進行していきます。日頃のことでも同士のかわりがあるまま表れた発表会となりました。

「みんなでがんばったおおきなかぼちゃ」

(もも組クラス使用)

発表会の取り組みが始まり、何度か練習するう

ちに自分の出番や動きを覚え始め、日に日に上手になっていきました。しかし、せりふ回しは難しく、なかなか大きな声が出ません。こは、一つ一つの子どもに頑張ってもらうしかない！つるの子さんと相談しました。つるさんが、大きな声で言えなかつたら、かめさんもひよこさんも大きな声が出ないよね！つるさんが「はれはれ！」すると、次の日、張り切つてセリフを言う年長児の姿、それを真似て、元気な声でセリフを言おうとする3歳児4歳児が次々にみられるようになりました。

「今日はこのくらい上手になったかな」と手で〇を作り、進行状況を子どもたちに伝えていき、毎日〇の大きさがだんだん大きくなっていくことを楽しみに練習が進んでいきました。最後の練習でホール杯の〇を作るとみんな大喜び、本番に臨む自信につながってくれたと思っています。

クリスマス音楽会

発表会は、異年齢縦割りクラスで行いますが、年齢別の保育活動で行うのがクリスマス音楽会です。今年、12月18日火曜日 発表会と異なり、平常保育の環で行います。それでもほぼ遊戯室杯

の保護者の方のご参加いただきました。プログラム

- 全園児の歌 「ゆき」「うさぎ野原のクリスマス」
- 年少児の歌 「1・2・3・4・5」「お星が光る」
- 年中児の歌と楽器
- 「世界中の子どもたち」
- 「シングルベル」
- 「あわてんぼうのサンタクロース」
- 「もろびとこぞりて」

年長児の歌とハンドベルとお話し

クリスマス音楽会ごほれ話

ハンドベルの練習をしていた時のことです。ベルを持ったママ「あわてんぼうのサンタクロース」を歌うことになると、だれともなく、「チャチャチャ」という歌詞に合わせて持っていたベルを鳴らし始めたのです。その音は濁っていて必ずしもきれいなものではありませんでした。そこで、みんなが話しかけて、きれいな音にするにはどうしたらよいか、和音を知らせ、それぞれの子が鳴らす順番を覚えてもらいました。発表会で行った和音は、保育者が初めから意図したものではなかったのです。

北海道文教大学との連携による研究活動

公開保育の取り組みをもとに、学ぶ意欲が高まっている保育者たちです。保育者たちの学ぶ姿勢には少なからず、北海道文教大学の先生たちとの共同研究から、よい影響をいただいています。今後は、保育の実践研究を学会等で発表し、広く意見をいただく中からさらに保育内容を深めていきたいと思っています。

- 最近の共同研究
- ・附属幼稚園におけるランニングについて
- ・子ども発達学科 小田進「准教授 北海道文教大学研究紀要 第37号 2013年3 掲載予定

- ・幼稚園における食育カリキュラム作成に関する基礎研究
- 子ども発達学科 古郡瞳子 北海道文教大学研究紀要 第36号 2012年3月
- 「食育としての栽培活動における課題」
- 子ども発達学科 古郡瞳子 家庭教育学会 発表 2012年8月 北海道文教大学研究紀要 第37号 2013年3掲載予定
- ・年長児のスキートの取り組みについて
- 国際言語学科 平岡英樹講師 北海道文教大学 論集第13号 第14号 2013年3月 掲載予定



◇アラ・カルト◇

今年、大人も走ります!! 6時間無マラソン出場予定!

子どもたちの生活の中にランニングが、定着してきました。意欲が高まり健康面での成果も見られるようになり、ランニングが大切なことには「走るって楽しい!!」ということ。それは大人にもいえることなので、職員と父母の融資で、7月に札幌ドームで行われる「6時間耐久マラソン」出場することになりました。一周2キロのコースを10人が交代でタスキをつなぎ、6時間何周したかで競う駅伝です。メンバーの中には、陸上競技の実力者もいますが、この場合も走って楽しい!実践!応援団と一緒に大いに盛り上がりたいたいと思っています。ランナーにとつての6時間はいけれど、応援の6時間はキツイ!

おやじの会が、大活躍!!

一昨年結成、数名のお父さんたちで結成されました。スノーフェスティバルに雪像を作っていたいたり、園舎内外の環境整備に尽力をいただいています。男親の集まりと聞いて、宴会ばかりと誤解する向きもあるのですが、この宴会においても意外とまじめ!お父さん同士で、ミニ育児講座のような場面も。3年目を迎える会員も増え、これからの活動に期待寄せられています。

北海道文教大学明清高等学校は、 今大きく躍進をはじめました。



平成24年4月北海道文教大学明清高等学校は隣接してあった旧短大を大改修し移転しました。

いままで高校校舎にはなかった大講堂や進学講習用小教室、ゆったりとした普通教室、生徒ラウンジ、最新の設備がそろった食物科調理室・集団調理実習室など施設も充実し、生徒達も新校舎に入ってきたとき笑顔にあふれました。

北海道文教大学明清高等学校は次の三つの教育を重視して実践しています。

1 挨拶・礼儀

コミュニケーション能力向上の二環として、誰に対しても、笑顔で、礼儀正しい振る舞いができるよう指導・育成しています。

一日が、明るく清々しい挨拶から始まります。

2 学力向上

生徒も、教師も意欲的に授業に取り組み日常の授業はもちろんのこと、大学進学希望者のための放課後、1・2年生対象のユニット講習、3年生対象の放課後明清塾（センター試験対策）進学講習（私大・看護入試対策）を通年で実施しています。

その結果、大学受験を目指す高校生が多数受験する、全国進学模試でも近隣校の中で、「中の上」に位置するまで学力が伸びてきました。

進学実績では、北海道文教大学だけではなく、3年連続「札幌市立大学看護学科（公立）」合格をはじめ、「北見工業大学（国立）」や「藤女子大学」、「北海道医療大学」など道内国公立、私立難関大学への合格者が年々増加しています。

3 高大接続教育

系列の北海道文教大学の教授による出前授業等により、一足早い大学の授業を経験することができ、将来就きたい職業を意識した学習ができます。



一定の成績基準がありますが、北海道文教大学への進学も可能で、本校から入学する場合、入学金等の免除があります。

新校舎移転で活気づく北海道文教大学明清高等学校



新校舎全景

平成24年4月明清高等学校は隣接してあった旧短大を大改修し移転しました。いままではなかった大講堂や進学講習用小教室、ゆったりとした普通教室、生徒ラウンジ、最新の設備がそろった食



生徒ラウンジ

物科調理室・集団調理実習室など施設も充実し、生徒達も新校舎に入ってきたとき笑顔にあふれました。

地域でも生徒達の元氣な挨拶と正しい

制服着用、先生たちの熱い授業で活気づいていくことが少しずつ伝わり、10月下旬の受験生・保護者対象教育説明会では、大講堂が満杯の300名を超える受験生・保護者が集まりました。

これをきっかけに学校全体が活気づき、生徒達のモチベーションが高まるという効果も明瞭になりました。

これからも、生徒達の進路目標達成のため職員一丸となって取り組んでいきます。



集団調理実習室



受験個人懇談



保育看護実習室



バリアフリートイレ

個性や希望に合わせて選べる キャリアプログラム

明清高校の教育

普通科

■探究進学プログラム

国際理解（中国語、英会話）の授業や放課後講習、模試受験、大学訪問などで総合的な学力を養成し、将来、就きたい職業を意識した大学選びができます。

■看護医療進学プログラム

看護師、理学・作業療法士、管理栄養士を育成する医療系大学への進学を目的としたプログラムです。北海道文教大学人間科学部

普通科	探究進学プログラム	国公立・難関私立大学
普通科	看護医療進学プログラム	医療系大学・看護学校
普通科	こども・福祉プログラム	保育・福祉・教育系大学
普通科	サッカープログラム	体育系大学 プロサッカー選手
食物科	調理・製菓プログラム	卒業と同時に調理師資格取得（調理師） ダブルスクール制度で製菓衛生師受験資格取得（パティシエ）

看護学科と

の連携により、

大学の施設見学や授業を

体験することができ、

「看護医療」への理解を高校

在学中から深めることができます。

■こども・福祉プログラム

北海道文教大学人間科学部こども発達学科への進学を目的としたプログラムです。附属幼稚園への見学訪問、地域ボランティア活動への参加、ピアレッスン等、実践的な授業があります。



■サッカープログラム

高校や大学で数々の実績を残したサッカー専門教員による指導で全国レベルに通用するプロ選手や指導者のスペシャリストを養成します。

■食物科

■調理・製菓プログラム

「食」に関する知識や技術を学び、高校卒業と同時に調理師免許が取得できるプログラムです。希望者は製菓衛生師の通信教育を受講することができ、国家試験に合格するとパティシエへの道も広がります。北海道文教大学人間科学部健康栄養学科への進学も可能です。

地域でも生徒達の元気な挨拶と正しい制服着用、先生たちの熱い授業で活気づいていることが少しずつ伝わり、10月下旬の受験生・保護者対象教育説明会では、大講堂が満杯の300名を超える受験生・保護者が集まりました。

男・女サッカー部大活躍



平成24年は、女子サッカー部OB高瀬愛美さんがロンドンオリンピックでも大活躍し、なでしこリーグでもリーグ戦18試合で20得点を挙げ、自身初になでしこリーグ得点王を獲得すると共に、なでしこリーグ最優秀選手賞（MVP）も受賞しました。



高校男女サッカー部も、高瀬先輩からの刺激を受けて、



女子は21年連続高校女子サッカー選手権全国大会に出場、男子サッカー部も創部以来初めて、春の高体連全道大会、秋の高校選手権全道大会共にベスト8に入る大活躍見せました。これからも応援をよろしくお願いします。

「教える面白さ味わった」 サッカープログラム

「隣り合う学校同士交流したい」という藤の沢小学校からの要望に応え、明清高校では全校児童を4回に分けてサッカー指導をしました。



サッカープログラム3年生が独自に学年ごとにメニューを変えてサッカーを教える面白さを、児童達はボールを追いかける楽しさをそれぞれ味わいました。

サッカープログラム3年 山ノ内萌

1・2年生のことも達々とも素直で、きちんと一緒に練習してくれたので、とても嬉しかった。笑顔で接することでコミュニケーションがとれたし、ゲームの時に声をかけ続けることでとても楽しくうにやってくれたので次も続けたい。自分たちが教えて「サッカーが楽しい」と言ってもらえて本当に嬉しかった。

藤の沢小学校3年生

大場まいさんの感想文

「明清高校のみなさんこの間は楽しいことを考えてくれてありがとうございしました。わたしは、あまりサッカーにきょうみがなかったけど、やってみるととても楽しかったです。これからもっともっと楽しくなりたいです。」



第

14 北海道文教大学大学祭「榮凜祭」が10月5日(金)から7日(日)まで開催されました。

今年度は、70周年を迎えた鶴岡学園の生誕を祝うとともに、大学祭に関わる方々と協力し、新たな北海道文教大学らしさが誕生するように目指して、「H B U 70th」をテーマとしました。大学祭実行委員会のメンバーは、大学祭に参加した学生、地域の方々が時間を忘れるほどの楽しさを感じてもらえるような雰囲気づくりに努め、歴史に残る「榮凜祭」にしたいと、連日、深夜にまで及んで準備を進めてまいりました。

その結果、大学教職員、後援会、同窓会、多数の協賛企業様のご協力を賜り、本学が設置する各学科紹介の展示、実習食堂での給食、もちつき、YOSAKOIの演舞、吹奏楽部の演奏、茶道部の茶席、様々な模擬店を出店、恒例の花火、ゲストライプにはバラエティ番組で活躍中の「2700」、「清水良太郎」が出演するなど、多彩なイベントを実施いたしました。

今年度は、初の試みとなる恵庭市長と本学学生が恵庭市についてのフリートークイングでは多くの方に参加していただき、市長から学生ならではの視点での意見を聞くことができたととても有意義だと言っていたとき、また



学生にとっても貴重な経験ができたのではないのでしょうか。

また、鶴岡学園創立70周年を記念して「文教万博」という展示がありました。歴代の理事長・学長の顔写真、各学科の学生の1日のスケジュールや本学の模型を展示し多くの方に北海道文教大学を知っていただくことと企画いたしました。

当日は、天候にも恵まれ、多数のご来客者にお越しいただき、7日(日)には父母懇談会にご出席いただいた650名を超えるご父母の皆様にも、ご息が一所懸命立案した企画の数々をお楽しみいただけたのではないかと思います。

大学祭に携わった学生にとっては、夏休みから本格的な準備が始まり、あつとつと間の3ヶ月間だったのではないのでしょうか。準備中や大学祭当日では大変なことがたくさんあったと思いますが、この経験を社会にでも生かしてもらいたいと思うとともに、大学での一番の思い出になってくれたら幸いです。

今年度の大学祭も無事終了することができました。関係各位の皆様、ご協力ありがとうございました。次年度の大学祭にも、更なるご支援とご指導をお願い申し上げます。



■台湾留学：充実の毎日

私は、大学1年生の時から中国語の勉強を始めたのですが、理解するにつれてどんどん勉強が楽しくなり、もっと学びたいと思い留学を決めました。今通っている台湾の静宜大学は、中国語はもちろん英語も履修できると聞き、1年間の交換留学生として来ることができました。友達もたくさんできて、毎日が忙しくて楽しく充実した日々を過ごしています。



ルームメイトと台湾の色々なところに行きまわりました。積極的に質問もできるようにになりました。中国語が着実に身につけていると実感できる日々です。

台湾人2人のルームメイトと一緒に生活しています。2人とも優しくとてもいい人たちです。1人は日本語を勉強中なので、お互いに言葉を教えあったり出かけたりの毎日の楽しみですね！また日本からはもちろん、フランスやロシア

球技大会

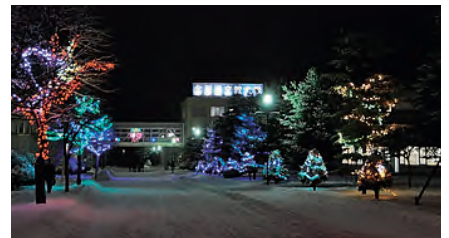
440名の学生が参加した球技大会が平成24年12月8日(土)・9日(日)の2日間にわたり開催されました。学生会主催で行われた球技大会は「学年、学科を超えスポーツでの交流を図り、参加した全員の思い出に残るような機会とする。」を目的に、1日目はバレーボールとバスケットボール、2日目はフットサルが行われました。両日とも白熱した試合が繰り広げられ、仲間のチームはもちろんです。相手のチームにも良いプレーがあると歓声や拍手が巻き起こっていたのがとても印象的な球技大会でした。



今年の球技大会も参加した学生や観戦している学生が満足してくれたのではないでしょう。か。来年に向けて1年間練習するチームがあるとも聞いていますので、来年度の球技大会も楽しみます。

イルミネーション

毎年恒例の北海道文教大学イルミネーションの季節が到来しました。雪が降り、日が暮れるのが早くなると本学イルミネーションを楽しみにしている方がたくさんいます。学生会の委員もその期待に応えらるよう努力し、年々華やかに装飾され、今年度は特に綺麗に装飾することができましたので、お近くにお住まいの方、恵庭の方には是非ご覧いただきたいと思ひます。



イルミネーションは、大学生門を入って両サイドの樹木にストリートライトや、花型のストリートライト、雪の結晶型のツラフラインなどのイルミネーションを使用し、美しいグラデーションが創られています。正門から見える渡り廊下には、星やベルなどのモチーフライトを使用しました。イルミネーション点灯式を平成24年12月11日(火)に実施し、本年2月8日(金)まで、土日、祝日を除き毎日16:30から20時まで点灯しています。

留学生交流会

学長主催による2013年留学生交流会が、1月16日(水)に本学の学生食堂にて盛大に開催されました。当日は、110名を超える留学生が集まり学長をはじめ、教職員や吹奏楽部などの学生と交流をしました。

交流会で鈴木学長先生より「本学は留学生の支援を積極的に行っていくので、よい学

習環境の下で勉学に励んでもらいたい」と留学生を激励する挨拶のあと、留学生を代表して国際言語学科3年の馮 寧君(フヨウネイ)さんから交流会の開催、学費減免、昼食補助など留学生の修学環境整備に関して、学長先生に感謝の言葉がありました。会食・歓談で息ついた後に、留学生から歌やダンスなどを披露があり、ふだんの大学生活ではあまり見られない、留学生の数々の特技に、参加者から大きな歓声が巻き起こっていました。



また、日本人学生を代表しては、今年5月に青森県で開催される津軽三味線本大会に出場予定の国際言語学科1年の飯嶋 自朗(イジマ ヨリアキ)くんによる三味線「津軽三味線 じゃんがら節」と「フーラン節」の演奏がありました。初めて聞く、目の前の津軽三味線の演奏に留学生は興味津々で聞き入っていました。

続いて本学吹奏楽部に「トロンボーンアンサンブル」を演奏してもらい、交流会を盛り上げてもらいました。

交流会は留学生、学生の企画により大変盛り上がり、楽しく多くの方と交流ができた素晴らしい会となり、帰る際には、留学生から感謝の言葉が多く寄せられました。



先に戻る留学生のお別れパーティーの様子。日本人組はダンスを披露!

など色々な国から留学生が来ていて、皆で台湾の絶景スポットや夜市などいろいろなところに行き、台湾ならではの観光も楽しんでいます。留学する前は、台湾はもつと外国のようなイメージだったので、日本の商品が本場にたくさんあり驚きました!コンビニ(セブンイレブン、ファミリーマート)には、日本のお菓子や飲み物も売っています。一瞬日本にいるような感覚にもなります。また、台湾は新鮮で安くおいしく飲み物屋さんがたくさんあったり、食べ物もおいしく物価も日本に比べて安いので毎日のご飯とても楽しみです!特に生活面での不自由も感じず、安心して過ごせています。

気づくと留学期間もあと半年です。勉強も少しずつ軌道に乗ってきたので、後半は話すことをもっと積極的に頑張りたいと思います。検定試験や、スピーチコンテストもあるので、そういったことを小さな目標にして勉強を前半以上に頑張りたいです。そしてこの留学期間で頑張つて中国語を身に付けることができたら絶対に将来の選択肢は増えると思うので、まずは能力UPのために、勉強を頑張りたいと思います!

国際言語学科2年 近藤 祐花

就職力宣言。

3年生(2014年3月卒業)の就職活動のスタート

2014年春の採用に向けた主要企業の会社説明会が12月1日解禁され、大学3年生の就職活動が本格的に始まりました。

08年のリーマン・ショック以降、採用を抑制してきた企業が新卒採用に前向きになり、求人は持ち直しつつあると言われています。一方、輸出の減速に伴う景気の悪化で求人が減る恐れもあり、学生にとって厳しさは続きそうです。

今年は、経団連の方針変更で、就活期間が約2か月短くなつてから2年目となります。道内は、昨年度まで、私立大学が、年明けの2月以降に企業説明会を開催することを申し合わせていましたが、今年度から2か月早めた為、全ての大学3年生が二者の就職活動のスタートラインに立つこととなります。

ことも発達学科の現3年生は、1期生ですが、一般企業を目指す学生を中心に、11月からの就職講座を受講しながら、就職活動が始まっています。採用試験に向けた履歴書を3月から受付け、本番の採用面接を4月中から実施する流れは、例年と大きく変わらないと思います。

新卒者に対して、年、何回かの選考試験を実施する道内企業が増えてきています。したがって、早い時期に内定を取り損ねても、諦めず挑戦することが、大切です。

政府は、若年者雇用緊急対策の一環で、卒業後3年以内の既卒者を2012年春採用から新卒者と同様に扱うよう経済界に要請し、既卒者採用が全国的に、特に大手企業に浸透してきていますが、どうしても、経験を何年間積んできた中途採用と比較してしまう現実もあるようです。これらことから、就職浪人を受け、必ず卒業直後の4月から入社する「強い意志を持って、就職活動を続けて欲しいです。」

看護学科の取り組み

4年生にとって、この二年間は就職活動の他にも、病院実習や国家試験対策などやらなければならないことが山積みです。時間を有意義に使う活動することが大切です。

その為に時期別にやるべきことを整理して、計画的に考えることが必要です。

就職活動に向けて、4年生の一人ひとりの学生に対し、学科が就職課が期待してきている内容について、まとめたいと思います。

1 効率良い活動をする為に一年の流れを知つて年間のスケジュールを立てる。

まず自分を見つめ直す。自分が何を考え、何を目標しているのかを知る為に自己分析を行う。

これまでの経験や、病院実習での体験を振り返り、自分が関心を持ったこと、楽しかった経験、辛かった経験を思い返し、自己を見つめ直すことから始める。

2 病院施設などのことを知る。

病院は、機能や役割、設立母体などさまざまなに分類されている。

自分に合った病院を選択する為にも種類や分類を知っておくことが必要である。何を基準にして、病院探しを行なうのか、早い時期に明確にしておく。

3 情報を収集する。

多くの情報を収集することが必要である。看護方針や新人教育体制、勤務条件などの視点から希望に合ったものを探していく。

4 実際に、自分の目で、病院を確かめる。

職場の雰囲気や働く人の声が聞ける見学会や説明会を積極的に利用して病院

6 病院施設を絞り込む。

早い時期から、情報を集めて分析し、自分の病院選択基準を持つて、応募先を選ぶ。

看護学科の教員と連携し、看護師を目指す全ての学生への対応として、二期生の取り組みを基盤に、2期生の現4年生に対し、春休み2日間の就職講座に加えて、看護学生合同就職説明会の参加を計画、実施しました。その内容は次の通りです。

看護学生合同就職説明会

学内での就職講座後、学外での2回の合同就職説明会を就職実践活動と位置づけ、看護学科4年生全員が参加しました。

4月24日、29日両日共、学生の他に、多数の看護学科教員、就職課職員が参加しました。当日は恵庭在住の学生は、往復共、合同就職説明会主催の就職情報会社が用意したバスを利用しました。

会場に着いた学生は、本学が予約してある部屋に集まり、改めて、就職講座で学んだ面談の仕方やマナーなどを確認し合い、その後、つても多くの病院の内容を知りたいと考え、各自が希望のブースを積極的に回りました。

本学の多くの学生は、7箇所以上の病院からの情報を収集したようです。このことは、興味を持つ多くの病院を比較し、その中から特定の病院を選択したい気持ちからだと思います。

病院合同就職説明会は、新任看護師研修体制、病院の風土や特色、福利厚生など、用意していた内容を質問し、学生にとっては、インターンシップ、病院見学会に合わせて、目指す病院に向けて知る貴重な学習体験になったものと思われ

ます。「希望の病院を選択する大切なポイントが明確になった」「目指す診療科が決まった」との声が多く、学生から聞かれました。

学生にとっては、就職講座で学んだ知識を活用しながら、挑戦する希望病院を選択する為の意義のある2日間であったようです。

「父母懇談会」を開催しました。

平成24年度の父母懇談会は、9月1日(土)に釧路と、10月7日(日)に大学祭に合わせて恵庭キャンパスにて開催されました。

釧路会場では、約60名のご父母が出席され、最初に鈴木理事長・学長から大学の現況について説明があり、その後、教務・学生及び就職関係の報告、各学科担当教員による個別面談を実施いたしました。その間、ご出席の皆様はビュッフェ形式の食事を取りながら、入学式や大学祭など各種大学行事を撮影した写真のスライドをおとして学生のキャンパスライフをご覧いただきました。

恵庭キャンパスでは、例年を大きく上回る約650名の出席申し込みがあり、会場も、本館2階の大講堂の他に1階の大会議場「羊蹄」に特設スクリーンを設置し、2会場で同時に全体説明会を行いました。全体説明では、鈴木理事長・学長から大学の現況報告、教務・学生及び就職関係の報告の後、健康栄養学科4年の小野寺里菜おのぞりなさんから就職内定報告がありました。

その後、各学科に分かれて、学科説明会、個別面談を実施いたしました。個別面談は、例年より時間を長めに設定し、ご父母からは、「子どもの大学での状況が、詳しい説明でよくわかった。」といった感想がありました。

今後、ご父母と大学が緊密に連絡をとりあい、更に実りのある懇談会にしたいと思います。



各学科のカリキュラム改正に みる「文教らしさ」の発見

人間科学部の医療系3学科 理学療法学科・作業療法学科・看護学科 では、学科設置最後の看護学科も今春2期生を輩出するに至った。学科新設からそれぞれ8年・7年・6年目を向かえ、各学科ではどのように独自性や特色を確立させつつあるのか各学科長やポインントとなる科目担当教員に取材した。周知のごとく国家資格取得を最終目標とするこれらの学科は、法的単位の取得整備は養成校として必須事項である。故に取得義務を求められる科目の占める割合が多く、このために選択科目数が少なからざるを得ない。よってどの養成校においても、カリキュラムは均質的なものになり、また多くの時間を実習に費やすことも必要であることから、明確な特徴を出しにくい。それでは昨年度から本年度にかけ各学科が行ったカリキュラム改正でどの様な変更が行われ、学生達にどの様な変化がみられるのであろう。

医療系3学科では、高度な専門知識と豊かな人間性で地域と社会を支える医療人を育てることを目的としている。したがってこの目的を実現するために既存科目の内容更新や配当年次及び単位数の見直しを行い、連携する実習科目の目標設定に対し十分な教育効果をおげることも強く求められる。そのような社会的な要求から各学科のカリキュラム改正が行われたのは必然であった。各学科とも若干の違いはあるものの、次の3点に変更内容が要約されるものと思われる。

■ 高度な専門知識を習得する土台となる「人体の構造と機能に関する科目群」など専門基礎科目の内容を見直し、各科目の充実を図った。具体的には、多くの科目において単

位数・時間数の増加や配当年次の低学年への移行が行われている。学習への早期取組を重視した理学療法学科では入学前課題のあり方も先んじている。1学年後期の「理学療法評価学」で使用するテキストを事前に使用し、入学前から合格者に医学の基礎となる解剖学と生理学への理解を促している。入学後すぐに必要となる医学用語に親しみ、また4月からの学習へのウォーミングアップにとどまらず、入学後は専門基礎科目の予習・復習の習慣化にも役立つことを期待するものである。

② 医療人たる前に本学学生は、現代社会に生活する社会人であることは当然である。病院の各専門で患者様と向き合う上で、社会と人々の関わり、自らの仕事や他者の仕事への理解、家族を含む他者理解、社会資源など周辺の理解は重要な視点である。そのような意味でも作業療法学科に「現代社会とキャリアアップ」が開設された事は極めて意味深い。生活実感に乏しく、専門の学習に追われる学生にとって、他学部の同年代の学生とこの科目をおして同様な体験をすることは、稀有な体験であるばかりか、患者様を理解する上で極めて貴重な体験である。同時に「マナーや職業感など社会人としての基礎的素養についても再学習する機会となる。

③ 医療系3学科にとって実習教育は対人医療者として実践活動する場であり、医療技術者を目指す上で、最も重要な教育課程である。その実習教育内容の一層の充実や医療人としての基本的準備をする支援科目の開設計画の移行、現代社会の特質を見据えた施設実習の拡大に伴う実習期間の変更等を行った。看護学科では「コミュニケーション論Ⅰ」「コミュニケーション論Ⅱ」を従前は1年次の「生活援助看護技術Ⅰ」の二つの単元であった内容を「コミュニケーションⅠⅡ」として科目立てをした。看護師は患者に一番寄り添う

ことが求められる医療技術者である。それ故に患者との「コミュニケーション」技術の習得は実習教育を実践する上で、必要不可欠な資質となる。このことにより患者の気持ちや入院療養環境を学ぶ「基礎看護学実習Ⅰ(見学実習)」では事前の個々の素養として、この「コミュニケーション」力は必要条件となる。本学の実習先病院からは、その効果について期待を寄せる言葉をいただいでおり、2年次における実習においてもこのふりかえり効果が層層めれるところである。実習教育の目標達成により効果的である。

このような各学科のカリキュラム改正をみると「文教らしい」姿がありありと見えてこないだろうか、医療人として基本的な事項を徹底して修得させる姿勢にこそ、患者に信頼され寄り添う医療技術者の自信や自負が育まれる。同時に本学で育まれた基本姿勢は、医療技術の進歩に同調する生涯学習の持続や医療技術者の心のありよう、信念の形成の根幹を形成するものと思えるのである。本学のスローガンである「人とともに。人のために。」を実践していくのは学生であり、それを限りなく支援していくのは我々教職員

「インターンシップ実践が もたらしたもの」

外国語学部ではそれまでの言語教育中心の3学科から2010年に国際言語学科として再スタートした。再生のポイントは言語プラスアルファである。「何の為に言語を学ぶのか」「他国の言語で伝えたいことは何なのか」「将来、どのような職業人になる為に言語を活用するのか」等々の疑問に答えるべく改組されたのであり、それを実践するのが3×6の新教育システムである。従ってカリキュラムの改正も同時に実施され専門科目は「ことば科目群」と「行動科目群」から構成され

る。本年はその行動科目群「目玉科目」である「インターンシップ」が開講され確固たる在学生の成果を見るに至った。科目担当教員である菅原准教授にその成果を取材した。

前期終了後の8月から9月にかけて、国際言語学科で最も力を入れているカリキュラムである「インターンシップ」プログラムに、延べ16名の学生が参加してきました。

そんな学生たちが、後期が始まってすぐ、眩い笑顔と大きな成長をお土産に研究室を訪ねてくれました。

ANA新千歳空港で実習を行わせていただいた佐藤可菜さん(3年)はインターンシップ報告書のなかで「働くということが重い責任と苦勞を伴うものであると痛感しました」と書いています。働くことの重さ。インターンシップに参加した学生でなければこんな言葉は簡単には出てきません。

苫小牧市役所学校教育課の井手愛莉さん(3年)は「自分の生まれ育った場所の教育の背景の一端を体験できたことで、教育に携わりたいという意志が強まり意義を研修だった」と書いています。地域社会に貢献する意義を感じることができたことは大きな収穫です。

北海道庁総合政策部広報聴講の渡邊奈々さん(3年)は「社会に出て仕事をすると時は中途半端なものを出してはいけないという責任が伴うこと、目的意識を持って取り組む大切さを学ぶことができました」と報告してくれました。彼女は、目的を持って仕事に取り組むことにより意義を見出していますね。

学んできたものは異なるように見えますが、3人のレポートには参加した学生でなければ書くことのできない言葉の重さが見取れます。いかに多くの大切なものを学んできたかが手に取るようにわかります。担当教員として振り返ってみると、インターンシップの教育効果はこちらの予想を遥かに超えて絶大のようです。

国際言語学科にこんな学生がたくさん集っていることは誇りで、2年生の皆さん、今年は君たちの出番ですよ。

「教員採用選考検査に向けての講座」 「市町村立幼稚園・保育所採用試験対策講座」の開設



こども発達学科では、小学校及び特別支援学校の教員及び公立幼稚園・保育所(こども園も含む)の保育者を旨とする学生に対して、①早めの意識付け ②採用選考の内容や仕組みの把握 ③主体的な進路計画の設定 ④自主的な対策・準備への対応をするよう取り組んでいる。

「教員採用選考検査に向けての講座」は、2年生20名、3年生24、「市町村立幼稚園・保育所採用試験対策講座」は2年生48名、3年生12名が登録している。この両講座は、本年度、20~30回程度を開催する予定である。教育的効果は高く、自ら図書館等で過去問を調べたり、問題集を購入して励む学生が目立ってきた。また、「目標に向かう自分の意識の「甘さ」を自覚したとか、日々の生活を見直すきっかけになった。」と述べる学生も出てきた。本学科では、7号館2階教室を、進路実現のための「学習室(自習室)」として活用する時間を増やし、本学科生の意識向上や学習環境づくりに、より一層、努めたい。

Our teachers

アワティーチャーズ



作業療法学科
教授
木村 浩一

北海道文教大学には平成19年4月1日、開設されたばかりの作業療法学科の教授として赴任しました。いきなり作業療法学科1期生の担任となり、しかも赴任したその日が入学式で、作業療法学科1期生入学者48人の名前を読み上げたのが最初の仕事になりました。担任になることは前もって決まっていたのですが、最初の勤務日ということもあって本当に緊張しました。

入学式が終わった翌週から、作業療法学科担任としてホームルームや新入生歓迎会などを実施しました。歓迎会は本来上級生が主催するものですが、まだ1年生しかおらず、この年だけは学科教員が主催しました。歓迎会は大いに盛り上がったのですが、1ヶ所にまとめておいたゴミが、翌朝カラスに荒らされて学内敷地に散乱してしまい、担任である私は大変怒られてゴミ拾いをする事になりました。なお、現在の歓迎会は2年生主催により行われ、新入生が先輩や教員と交流を深める貴重な場となっています。

1期生の最初の1年間は後期の定期試験で終わりとされるのに合わせ、作業療法学科では、さらに親交を深める目的で、定期試験の最終日に大学の食堂で交流会を開くことになりました。交流会には同窓会の後援金を使わせて頂いたおかげで、食事だけでなくビンゴゲームによる景品もあり、学生だけではなく教員も随分と気合いが入りました。この時も企画だけは教員が行いましたが、学生も1年間で随分たくましくなり、運営は完全に彼らが行いました。この

交流会も、今では学生の企画・運営により大絶賛継続中です。

作業療法学科の学生は3年生から各教員のゼミに配属され、担任の職も終わりととなります。1期生が3年生になった4月、彼らが3年への進級祝賀会をするということで、元担任である私も参加したところ、祝賀会ではなく、副担任を務めていた向井准教授と私の感謝の会ということで、学生一同から花束を贈られるという、予想もしていなかったイベントがあり、2人ともヒックリすると同時に、とても感激しました。

こうして3年生になった1期生からは、6人の学生が私のゼミに所属し卒業研究を行いました。研究テーマは、「雪による発電装置」と「超音波レーダー」の開発です。超音波レーダーは、視覚に障害を持つ方々を対象にした機器、視覚障害者が電柱や掲示板、トラックの荷台などに衝突して怪我をするという、意外に多い事故を防ぐことが目的です。また、雪

による発電は、北海道で厄介者とされている雪を発電の資源にしてしまおうという、なかなか野心的な研究ですが、実際に小型の装置で実験したところ、ちゃんと発電させることが出来ました。この研究は新聞にも掲載され、ゼミの学生全員と東京の学会でも発表して来ました。東京の学会では大学から運んだ発電装置を組み立てたり、かき氷器で雪を大量に作ったり、配布資料が不足して「コンビニに走ってカラーコピーしたりと、昼は学生も私も走り回り、夜は毎晩反省会を兼ねた夕食会で楽しい時間を過ごしました。



東京での学会開場で準備中、
右端の学生は入場許可証を忘れてハンカチで代用。

こうして多くの学生達と楽しくも大変な日々を送り、1期生が入学してから6年が経過してしまいました。こちらの大学に赴任するまでは、学生達とこれほど親密なやり取りをしたことが無かったため、この間、色々な発見がありました。一番印象に残ったのは、何かを生懸命にやり遂げた経験を持つ学生は強いという、当たり前のことです。勉強やクラブ活動、あるいは趣味で生懸命になって得たモノが直接役に立っているのではなく、何かを成し遂げるために必要な、途方もない努力を経験した事が強さなのです。勉強や仕事では必ず困難に遭遇する、それを克服するために努力が必要で、しかも遭遇する困難は大抵嫌な事で、その為に努力することはとても辛く、努力しても成果が出ないから諦めたくありません。しかし、何かをやり遂げるために途方もない努力をした経験があれば、少なくとも同じだけの努力をするまでは、諦めるという結論は出て来ません。自分が好きなことに多くの時間を割けるのは学生の間だけです。好きなことに「生懸命努力するのなら、辛くても何とか出来るでしょう。是非、学生の間に夢中になれることに打ち込み、成果を上げるのに必要な努力の膨大さを知って下さい。」「努力は必ず報われる。報われないのなら、それはまだ努力とは言えない。」「常に私自身に言い聞かせている言葉です。

■国際言語学科

英語ミュージカルThe Little Mermaid 大盛況のうちに公演終了



2012年12月21日(金)に恵庭市民会館にて、外国語学部、国際言語学科の学生たちによる英語ミュージカルThe Little Mermaid(「リトル・マーメイド」)が上演され、本学以外からも、小さなお子様から学生さん、大人の方まで幅広い地域の方々に見守られて、大盛況のうちに幕を下ろすことができました。このミュージカルは、演劇とコミュニケーションが専門で、自身が監督した映画『近すぎる空～too close to the sky』が国際的なFilm Asia2012賞の最優秀短編映画賞を受賞し海外でも上映されている、オーストラリア出身のデニス・クイン准教授の監督・指導のもと、準備からリハーサルまで全て英語で行われている本格的な英語ミュージカルで、本場の表現が身に付くと参加学生にも好評です。

■看護学科

実習に向けて

厳しい寒さが続くなか、2月から2年生は初めての实習となる基礎看護学実習が始まる頃となりました。看護学生にとって実習は大学で学ぶ単位のうち1/3を占めます。看護学実習は文系の学生、法学や経済学、歴史学や心理学等を大学で学んでいる学生にはない科目です。皆さんがイメージするならば、インターンシップのようなものです。ただ、大きな違いは、インターンシップのように「就業体験」ではなく、各領域の看護学実習の目的が明確であり、その目的を達成するために実習を構築します。平成24年度より新カリキュラムとなり基礎看護学実習は2回行うことになりました。1年生では「基礎看護学実習I」を行い、看護師に同行し患者さんへの看護を見学します。2年生の「基礎看護学実習II」では実際に患者さんを担当し看護を実践します。現1年生は昨年9月に「基礎看護学実習I」を終え、入院療養する患者さんを知り、看護師の仕事を見学することで看護職を目指す厳しさを感じ気が引き締まった様子です。実習後は看護基礎技術の修得にも力が入り、技術テストに向けて日々練習を行なっています。



2年生は初めての基礎看護学実習での看護実践に向け、今まで授業で学んだことが実習で通用するのか不安を抱きつつ実習に臨みます。初めての実習では初体験することばかりで悩んだり迷ったりしますが、初めて患者さんを担当することで看護の楽しさや喜びを知ります。また、看護師と一緒に看護することで看護職としての自分の目標をみつける学生や、未熟さを知り自己課題をみつける学生など実習を経験することで看護学生として洗練されていきます。

2年生の基礎看護学実習が終ると3年生後期から各論実習(母性・小児・地域在宅・成人・老年看護学実習)があり4年生の継続統合実習まで実習は続きます。このような実習を行っていくことで学生は患者さんの痛みを感じ取れる感性と苦しみを思いやる優しい心を身に付け、患者さんのプライバシー保護など、守るべき強い倫理観を持つ、医療人として重要な資質を育みます。

■理学療法学科

国家試験対策



今年度の理学療法士・作業療法士国家試験(2月24日)も目前まで迫ってきました。この時期4年生はどのように過ごしているのでしょうか? 答えはもちろん「勉強漬け」です。学科では昨年11月から毎朝、復習のための小テストを行っています。このほかにも出版社による全国模擬試験、大学教員が用意した問題による模擬試験は3年生から定期的に行っています。またこれらのテストと平行して、各分野の教員が学習のポイントや試験対策の秘策(?)を紹介する「国家試験対策講座」も10数回行っています。

学生たちは各テストから自分の弱点を見出し個々で勉強するほか、セミごとにグループ学習を行い学力の底上げを図っています。毎日遅い時間まで教室に残り過去問題集に取り組んでいる学生も少なくありません。

こうした学生たちの努力が国家試験合格として実を結びますように!

■健康栄養学科

特別講義がスタート

健康栄養学科では、新たな企画として、国内外で活躍している管理栄養士や食品関連の研究者や技術者を招聘して、管理栄養士という職業の重要性や価値、さらに職域などについて講演をしていただくことになりました。今年は、初回を飾るにふさわしい日本栄養士会前会長で神奈川県立保健福祉大学長の中村丁次先生より、管理栄養士という職業のすばらしさについて貴重なお話しをお聞きすることができました。さらに、日本ハム(株)で管理栄養士をされている柄澤 紀先生からは、日本ハムファイターズ選手の栄養管理、神奈川県立保健福祉大学教授で、日本スポーツ栄養研究会会長の鈴木志保子先生からは、現在、本学学生も非常に関心の高いスポーツ栄養学に関して実践的な内容の講義をしていただきました。今後も、北海道文教大学でなければ聞けない超一流の講師陣による講演が予定されています。乞うご期待を!!



■作業療法学科

学科セミナー開催



今年度の学科セミナーでは愛媛大学教育・学生支援機構教育企画副室長 准教授 佐藤浩章先生を講師としてお招きし、カリキュラム改善をテーマとした講演、ワークショップを実施しました。

講演では、教育の質向上のために教育方針となる3つのポリシーを明確に、具体的に決めることの重要性と、一貫性をもったカリキュラム構築の重要性についてお話していただきました。3つのポリシーとは、学位授与の方針(ディプロマポリシー)、学生受け入れの方針(アドミッションポリシー)、教育課程編成の方針(カリキュラムポリシー)のことです。また、その後のワークショップでは学科の教員でカリキュラムの現状把握と、今後、科目間の連携をはかるにはどのような科目構成がよいのかを考えるグループワークを行いました。授業構成の見直しや、情報共有の良い機会となりました。

今回のセミナーの内容を活かし、各々の教員が授業をわかりやすくすすめる努力をすることはもちろん、カリキュラム構成の観点からも、学生にとって実りのある授業を実施できるよう、今後も作業療法学科教員一同努めてまいります。

同窓会の今から

文教大学同窓会「つの会」会長 後藤田 倫子

日頃より大学並びに後援会の皆様には同窓会活動につきまして多大な御協力とご理解を頂いていますことに厚くお礼申し上げます。

例年3月の卒業生を送る会また同窓会入会式には多数の同窓生にお集まり頂き学生たちへの支援の輪が広がってきております。また各学部への「教育研究助成金」につきましても年々申請が増加してきています。

年1回の会報「はまなすの実」もより充実した紙面になってきております。同窓会ホームページも年4回更新しており内容ともまた住所変更その他の登録もより簡単に出来るようになってきておりますので是非1度アクセスしてみてください。

今後とも大学発展の為に微力ながら貢献してゆきたいと思っております。

人と、地域と、世界と、 そして自分の将来につながる 北海道文教大学鶴岡記念図書館

図書17万冊、雑誌800タイトル、視聴覚資料5,000タイトルを所蔵し、検索用PC30台を備えたワンフロアの図書館には魅力がいっぱい。図書館はみなさんの応援団です。

- 不安と希望を持って入学するみなさんに図書館は安心とやる気を提供します。大学図書館は入学前でも利用することができます。大学ではどんな科目があり、どんな教科書を使っているのか、実際に調べることができますので、自分の将来について限らない夢が広がります。図書の貸出しサービスも実施しています。
- 読みたい本や授業で使う資料はどこにあるの?どうやって探すの?入学後、図書館の利用方法についてガイダンスを行います。これで、必要な本や雑誌を容易に見つけることができるようになります。
- レポートや卒論で参考にする文献が欲しい。図書館では学科と連携して、文献を入手するための「データベースガイダンス」を行っています。本学では電子ジャーナルを約4,200誌契約していますので、論文を検索するだけでなく本文を読むことができます。もし、入手できない場合でも、全国の大学図書館に文献のコピーを依頼することができます。
- 一人で勉強したい人には個室(キャレル)を用意しています。情報コンセントが備わっている場合は自分のPCをつないでインターネットにも接続できます。グループで学習したい場合は、ラーニングcommons(H23年度にオープン)で友人と討論しながら学習を進めることができます。

高校1、2年生対象

君が来るのを
待っています。

オープンキャンパスin春休み

3/26
10:00~14:00

〔参加者受付中〕 電話から ☎0120-240-552

ホームページから 北海道文教大学 検索

内容(予定)



●入試ガイダンス

【入試ガイダンス】では、進学アドバイザーから最新の入試情報について説明を聞きます。



●体験講義・実習

理学療法学科の体験実習では、先輩が実習で得たリハビリの技術を披露します。



●学食体験(無料)

●キャンパスツアー

●先輩とフリートーク

先輩と直接話ができ、勉強やサークル活動などのキャンパスライフや入試などについて、「生」の声が聞けます。



●学科紹介

先輩スタッフは、学科色のスタップポロシャツを着用しています。気軽に声をかけてみましょう。

●入試個別相談コーナー など

「体験講義・体験実習」テーマ

- 国際言語学科
講義 Asking for and Giving Directions
- 健康栄養学科
講義 知っているようで知らない栄養士・管理栄養士の仕事
- 理学療法学科
講義 姿勢について〔その④〕
～姿勢と脳:リアルって何?～
- 作業療法学科
講義 作業療法って何?家事の中の作業療法を体験してみよう
- 看護学科
講義 手のひらに住む細菌たち
実習 実習室の見学
- こども発達学科
講義 もし、学校に通わずに社会に出たら…
(夜間中学の意義)

アンケートをご提出いただいた高校生にもれなく『JRオレンジカード』プレゼント

北海道文教大学吹奏楽部が、 第2回定期演奏会を開催します。

北海道文教大学吹奏楽部は今年も定期演奏会を開催することになりました。この定期演奏会は、昨年、東日本大震災からちょうど1年となる3月11日に第1回を開催し、被災地復興の願いを籠め演奏いたしました。

今年は、3月20日の春分の日、昨年に引き続き、北海道文教大学をはじめ、恵庭市、恵庭市教育委員会の後援をいただき、恵庭市民会館にて開催します。いつもお世話になっている方々や学校関係者の方々へのお礼、北海道文教大学吹奏楽部のことを応援してくださる方々のため、日頃の感謝の気持ちを示し、恵庭市民をはじめとする一般のお客様にも北海道文教大学吹奏楽部を知ってもらえるよう、日々の練習成果を披露することで、皆様に楽しんでいただけたらと思います。



詳細は次の通りですので、多数の皆様のご来場を心よりお待ちしております。

開催日 平成25年3月20日(水・祝)
開場 19:30 開演 17:00 終演 19:00
会場 恵庭市民会館・大ホール(恵庭市新町10)
入場料 前売り400円 当日500円
※小学生以下無料

内容 1部 クラシックステージ
2部 ポップステージ

1部は吹奏楽を感じることが出来る曲を披露し、2部はおお客様の印象に残るような企画を用意し、楽しんで聴いていただける内容となります。